不定期刊行　　第 591 号　2016.10.10

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町岳陽高等学校

また一回り大きくなった生徒たち

この連休は、北アルプスの展望をほしいままにしながら、2 泊 3 日でパノラマ銀座を蝶ヶ岳から、常念、大天井、燕とつなぎ、東沢乗越から中房温泉へと下山。錦秋の山を愛でた・・・。と書くはずであったのだが、なぜかその連休の中日に「かわらばん」をものしている。その顛末は以下をご覧あれ。

8 日、出だしからずっこけた。今回は縦走故、電車とタクシーを使って三股から入山することにしており、松本に自宅のある僕は妻に頼んで、7 時、豊科駅に向けて出発しようとしていた。まさにそのとき、小谷から来る生徒から「電車が 30 分以上遅れていて、信濃大町で乗り継ぎできるか不明」というメールが入った。一体何が起こったのか？予定の時刻である 7 時 23 分に豊科駅に行くと、大町以南の生徒は全員集合するも、以北の 2 名はいない。連絡してみるとまだ白馬だという。なんでも前々日の台風の余波で、車輪が滑って空回りをして進まないのだという。結局、1 時間半以上遅れて出発することとなった。とはいえ、今日の行動は蝶ヶ岳のテン場までだから、そう慌てることもない。

9:30　駐車場発。三股の登山補導所には、台風 18 号で倒れた大木が屋根の上にかぶさり、小屋をつぶさんばかり。歩き出してすぐに鉢巻き姿でチェーンソーを片手に降りてくる御仁がいる。よく見ると、2001 年に崑崙山脈のヤズィックアグル（6691m）に一緒に初登頂した田中広樹君だ。今は森林組合の仕事をしている。「台風 18 号でだいぶ登山道が荒れて、（蝶ヶ岳ヒュッテの中村）圭子さんに整備を頼まれて・・・」とのことだった。さらに、昨日の作業でなんとか通れるようにはしたが、すごい荒れようで場所によっては、道の付け替えもしたそうな。まめうち平の下部では、別の仲間がその作業の真最中。標高 2000m付近では場所によっては、一面大木が根こそぎなぎ倒されている。まるで巨人が歩き回ったかのような光景に目を疑う。5 日の晩は松本でも夜半過ぎにかなり風は強かったが、山ではこれほどまでも風が強かったのか？自然の驚異に、生徒ともども驚嘆しながら、13 時 40 分に蝶沢に到着。まめうち平のあたりから降り出した雨は、このあたりから本降りになり、戦意を喪失させる。しかし、あと一息だと弱みは見せずに生徒に発破をかける。しばらく歩いていくと上から降りてきた登山者が稜線の風はちょっと想像を絶するすごさでしたとすれ違いざま教えてくれた。

台風 18 号の爪痕

14:40、大滝の分岐を過ぎ、稜線へ出た瞬間、恐ろしいまでの強風が僕らを襲った。蝶は風が強いことが多いが、この風はちょっと尋常ではない。あとで聞いてみると。足がすくんで歩けなくなり泣き出した女子もいたらしい。僕が小屋に到着の連絡をしている間、多くの生徒が飛ばされないように道標にしがみついていた。瞬間的には 20mを超えているだろう。小屋から戻って、早速テントを張らせるが、おそらくこの風の中では 4 人で張るのは難しかろう。今回生徒は 15 人の 4 班構成である。2 班ずつにして 8 人で一

張ずつ張るように指示。僕はもう一人の顧問の矢口先生の一人用テントを張る手伝いをする。なんとかそれを張り終えたが、それを終えてもなお、生徒たちのテントは、いまだ一張も張れていない。3 年生で唯一来ている片山にＢＣ班を見させて、僕はA班と女子班についた。結局、4 張のテントを張るのに 1 時間近くを要した。すでに先着のテントも 3 張あったが、ハイマツのかげの風の当たらない条件のよさそうなところから張られているので、4 張のうち 2 張はどうしてもそこから少し離れたところに張らざるを得ず、不安な設営となった。小屋でテン場の手続きをすると、オーナーの中村さんから「いつも全校登山でお使いいただきありがとうございます。今日は風が本当に強いので気をつけてください。」と言われた。小屋からテン場までの稜線からは、安曇野が望めるが、強烈な西風に吹き落されそうだ。

16 時、やっとのことで設営を終えて、僕はA班のテントに入る。狭いながらも愛しき我が家。テントの中で人心地。茶をわかし、夕食の準備。今日のメニューは、豪華に牛丼。テントの中に玉ねぎの涙成分が充満するがそれもまたよし、5 時半には夕食を食べおえた。外へ出て、テントの状態を見て回る。しかし、予想以上に状況は深刻だった。風は一向におさまらない。そんな状況の中で、一番条件の悪い場所に張ったD班のテントのフライが引きちぎられるという事態が発生した。A班のテントでもペグにかけ、その上を石でおさえておいたゴムとガイラインが切れた。それを補修をしながら、なんとか乗り越えよう、一晩やり過ごせばと思っていた矢先、D班のテントの四隅を止めてあるグロメット（ポールを入れるための穴）が引きちぎられるという事態が発生した。呼ばれて飛んでいくと生徒が外に出て押さえている。ロケーションの悪いC班のテントはひしゃげ、風にあおられている。この状況で、18 時 30 分、ＣＤのテントを撤収することを決定。荷物は外に出し、矢口先生のテントに２名、A班に８名、女子班に７名で一夜を過ごすことを生徒に伝えた。それぞれ定員の倍の人数ではあるが、一晩ならなんとかやりすごせるだろうと・・・。狭い中で体を寄せ合い、8 時ごろから横になる。時折突風にあおられながらも、数時間ウトウトした。なんとなく、冷たいものが降ってくるので起きると 12 時だった。風向きが変わり、南風となった。張綱を引きちぎられたフライが半分外れそこから雨が吹き込み、テントは風に翻弄され、今にもつぶれそうである。これ以上は無理だろう。直ちに撤収を決断。外に出てみると、女子班のテントもフライは同じ状態だった。けなげにも「朝まで耐えます」という。このころからさらに風は勢いを増し、小ぶりだった雨が降り始めた。フライのないテントでは無理なうえに、これ以上テントの破損を広げたくないと説得し、12:40 分から撤収の準備をさせる。1 時 20 分全員が小屋に逃げ込んだ。屈辱だった。もう少し手立てはあったのか、それともこれが限界だったのか？唇をかみしめる。

4 テンに 8 人

深夜の撤収

結局風と雨は、朝になるまで吹き続け降り続いた。朝まで蝶ヶ岳ヒュッテで無料で仮眠させていただき（多謝）、早朝に下山。以上が 2 泊 3 日が 1 泊 2 日になった顛末である。